ネイパル足寄

野外活動を通して、協調性・自立心を育成

これでおまかせ！キャンプはばっちり！！

1　事業のねらい

キャンプ体験などの野外活動や宿泊体験を通して協調性、自立心など心身の健全育成を図るとともに、災害時に役立つスキルを身に付ける。

2　事業の概要

■期日　R6.8.2(金)～4(日)　２泊３日
■対象　小学４年生～小学６年生
■人数　小学生 39 名　ボランティアリーダー10 名
■場所　ネイパル足寄

3　プログラム

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目	受付時間 13:30～14:00								受付	結団式	テントde寝床づくり べんりなローピングマット・寝袋準備			野外クッキング①防災カレーづくり	レクリエーション	ナイト	入浴	就寝
2日目	起床	洗面	寝袋整理	体操	野外クッキング②カートンドッグ	森の散策（自然観察、まき拾い）		野外クッキング③流しそうめん	休憩	活動準備	野外クッキング④カマドで炊込みご飯				ファイヤー	キャンプ	入浴	就寝
3日目	起床	洗面	寝袋整頓	体操	野外クッキング⑤防災麺	テント片付け	ふりかえり	閉会式	10:15解散								

4　ねらいを達成するための活動の工夫

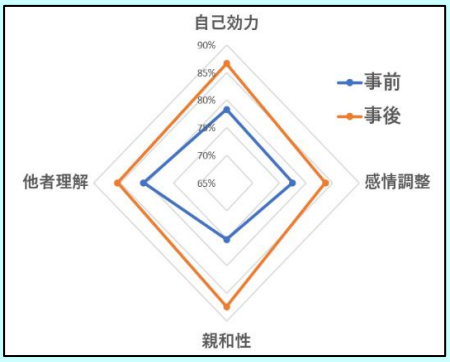
■参加者が考え主体的に活動するプログラム
・すべての活動の中で参加者同士の話し合いを促し、自分たちが役割分担をしながら協力してプログラムを進めることを重視した。
■防災の視点を入れたキャンプ飯の調理体験プログラム
・身近なものを利用して温かい料理を簡単に作ることができる調理方法を体験した。
■サスティナブルな社会を意識した活動
・洗いものの減量、ゴミの処理の行方を考えながらのプログラム全体に渡って、限りある資源を有効活用することを意識した。

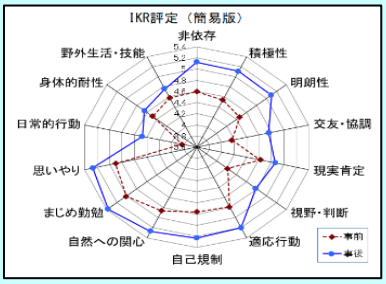
話し合い、協力しながらテントを設営

5　事業の評価

■レジリエンス調査では、「親和性」「自己効力」の有意差が見られ、事業のねらいや活動の工夫が活きたほか、「他者理解」や「感情調整」の向上が見られた。

資源を大切にした
ダッチオーブン調理





■IKR 評定（簡易版）は、「非依存」「積極性」「明朗性」「日常的行動」の変容が特に伸びており他の項目でも優位性が見られた。
■アンケートには、「テントを協力して建てられた」「火起こしからの炊飯は難しかったがうまくできた」など参加者それぞれの達成感が表れていた。

6　ねらいを踏まえた成果と課題

●事業全体を通して、子ども同士の対話を促しながら、大人がなるべく手を出さずに子どもの頑張りを認めながら活動したことが、レジリエンス向上や「生きる力」の育成につながった。
○暑熱対策において、参加者に対しては適度な休憩や余裕を持った時間配分にしたプログラムで実施したが、運営者にとっても同様な対応や担当者以外のサポート体制が必要である。

企画のポイント

子どもたちの対話と協力を促し、テント泊や身近なものを利用した調理体験などの防災の視点を入れた活動プログラムの実施